

令和 2 年度

沖縄県立看護大学

一般選抜（前期）試験問題

出題の意図

島は、地理的に海に囲まれ、また、文化的に他の島と離れ独自の文化を築いているという特性をもつ。その特性から、海や陸から得られる多様な恵みがあり、人々は深くつながって生活している一方で、天候が荒れると周りの島から隔絶され、物資や情報に乏しく、置いていかれる不安を覚えるなど、幸と不幸、暮らしやすさと暮らしにくさという、相反する感じ方がもたらされる。島の暮らしを考えると、異文化理解の視点から多面的なものごとのとらえ方が不可欠であり、グローバルな発想が求められる。このような点から本題材を通して、異なる文化や価値観をもつ人とその暮らしに対する受験生の関心や、固定観念にとらわれない柔軟な考え方を問いたい。

アドミッションポリシーの「3. 離島・過疎地域医療を含めた沖縄の看護に関心を持つ方」、「4. 異なる文化に関心を持ち、国際的な視野で看護を学ぶ意欲を持った方」に関連する。

離島で育った著者の「あとがき」に綴られたリアルな体験談を読んで、どのように感じるか、島に対する自分の知識や体験、島の魅力など、島に対する考え方や思いを表現して記述させる問題である。

【問題】 次の文章を読んで設問に答えなさい。

※非公開

出典：玉城英彦著、社会が病気をつくる―「持続可能な未来」のために、角川学芸出版、  
2010年。あとがきより一部抜粋し改変

【設問1】 下線部の「小さい島に対する人々のステレオタイプの考え方」について文中の言葉を用いて60字以内で説明しなさい。

【設問2】 島についてのあなたの体験や知識を述べ、問題文の論旨をふまえた島の魅力について600字以内で述べなさい。